

令和2年度第1回野々市市総合計画審議会 議事録

日 時 令和2年9月1日（火） 16時から17時40分

場 所 野々市市情報交流館カメラア2階 ホール椿

次 第 1 開会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 諮問

5 議事

(1) 令和元年度の取り組みについて

(2) 総合計画策定スケジュールについて

(3) 市民参画での取り組みについて

(4) 総合計画策定作業部会の実施について

(5) 市民意識調査の結果報告について

(6) 基礎調査の結果報告について

6 その他

7 閉会

出席委員	上野 弘子委員	榎本 俊樹副会長	太田 利一郎委員	坂井 和代委員
	澤村 昭子委員	シー 里香委員	鹿田 正昭会長	関口 英委員
	田多野 和彦委員	中塚 稔委員	中村 昭一委員	西村 一正委員
	初野 健二委員	東 伸明委員	藤田 雅顯委員	宮川 渉委員
	山下 真利奈委員	山本 善明委員	吉川 明彦委員	

欠席委員	朝倉 あづさ委員	堅田 芳弘委員	狩谷 満春委員	平泉 沙由里委員
	山本 剛行委員			

事務局	山口副市長	加藤総務部長	北企画振興部長	堤健康福祉部長
	北川土木部長	中田教育文化部長	越柴秘書室長	荒木財政課長
	木戸口企画課長	企画課職員（窪補佐、北坂主査、三井主査）		

<p>司会（木戸口課長） 開会</p>	<p>1 開会</p> <p>定刻となりましたので、ただいまより令和2年度第1回野々市市総合計画審議会を開催します。皆様方には、公私ともにご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただく企画課長の木戸口でございます。よろしくお願いいたします。着座にて進行させていただきます。</p> <p>初めに、本日の会議につきましては、現在19人の委員がご出席です。野々市市総合計画審議会規則第3条第2項の規定により、委員のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立していることをご報告致します。</p> <p>次に、開会に当たり、皆様にお願いが2点ございます。1点目は、この審議会は開催状況を市のホームページで公表しており、会議録を作成するため本日の会議の内容を録音させていただきます。発言の際はマイクをお持ちしますので、マイクを使用させていただきますようお願い致します。</p> <p>2点目は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、会議は1時間程度の開催を想定しております。資料や説明に関するご質問やご意見は簡潔にまとめていただき、会議の円滑な進行にご協力いただきますようお願い致します。また、会場は適宜換気をさせていただきます。</p>
<p>司会（木戸口課長） 名簿の確認</p>	<p>さて、皆様のお手元にある野々市市総合計画審議会委員名簿について報告させていただきます。昨年度まで委員を務めていただいた金沢大学の蜂屋准教授が今年2月にご逝去されました。会長とも協議の上、本年度は委員24名にて審議会を開催してまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会（木戸口課長） 資料の確認</p>	<p>続いて、本日の会議資料を確認します。</p> <p>資料番号1 令和元年度の取り組みについて 資料番号2 総合計画策定スケジュールについて 資料番号3 市民参画での取り組みについて 資料番号4 総合計画策定作業部会の実施について 資料番号5 市民意識調査の結果報告について 資料番号6 基礎調査の結果報告について</p> <p>以上です。皆様、お手元の資料のご確認はよろしいでしょうか。</p>
<p>司会（木戸口課長） 委嘱状交付</p>	<p>2 委嘱状交付</p> <p>続いて、委嘱状の交付に移ります。野々市市民生委員・児童委員協議会の会長の交代に伴い、前任の前川様の後任の東様に審議会委員を委嘱することとなりました。東伸明様、恐縮ですが、その場でご起立いただき、委嘱状をお受け取りください。（市長から委嘱状を交付）</p>

<p>栗市長 (市長挨拶)</p>	<p>3 市長あいさつ</p> <p>本日は、ご多用のところ野々市市総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。皆様には日頃から各方面にわたり本市のまちづくりにご協力、ご尽力を頂いていることに、厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、皆様には大変なご不便や大きなご負担をおかけすることになったかと思えます。改めて、お一人おひとりの感染拡大防止に向けた行動に感謝を申し上げます。新型コロナウイルスの猛威は、今も予測のつかない状況で、長い闘いが予測されますが、今後も拡大防止の取組に精いっぱい努力してまいりたいと思えます。</p> <p>今年度は、「じょんからまつり」など市のイベントも多くが延期または中止となり、大変心苦しく思っております。今後は、私たちに求められている「新しい生活様式」の中で、いかにして皆様と時間を共有していけるかを模索してまいります。</p> <p>さて、昨年度より皆様と策定を進めております野々市市第二次総合計画は、言うまでもなく市のまちづくりの道しるべとなる大切な計画です。当初の予定どおり全てを進めることは、今申し上げたように厳しく難しい状況ではありますが、着実に計画を策定してまいりたいと思えますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ここで一つ、昨今の市の明るい話題をご紹介しますと、野々市中央公園が、世界的に優れたツバキ庭園に対する国際認証「国際優秀つばき園」に認定されました。去る8月12日に正式に認定書が市に届き、先般、この中央公園の中の「愛と和 花のギャラリー ののいち椿館」で発表させていただきました。</p> <p>市の魅力を対外的に発信し、この中央公園をはじめとし、カミーノやカレードなどの施設をきっかけに、まずは当市を知っていただき、市に愛着を抱いてくださる方、いわゆる野々市市ファンを増やしていけるような取組を今後も進めてまいります。</p> <p>委員の皆様には、それぞれのお立場から、第二次総合計画の策定に向け、率直なご意見やアイデアなどを頂くようお願いを申し上げ、開会に当たっての私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。</p>
<p>司会 (木戸口課長)</p>	<p>続いて、鹿田会長、ご挨拶をお願いします。</p>
<p>鹿田会長 (会長挨拶)</p>	<p>野々市市総合計画審議会会長、金沢工業大学教育支援担当副学長の鹿田でございます。先ほどの市長のお話にもありましたように、新型コロナウイルス感染症拡大で非常に厳しい状況になっておりますが、今年度も皆様方のお力添えを頂きながら会議を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>昨年度から、令和4年度からスタートする野々市市の第二次総合計画の策定に着手したところでございます。今年度は本格的に策定業務を進めていくことから、現時点では全部で3回の会議開催を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>また、総合計画は、令和4年度から10年間という非常に長いスパンの多岐にわた</p>

る政策を網羅した計画になります。

既に皆さんご存じのことと思いますが、野々市市は東洋経済新報社が発表している「住みよさランキング 2020」で第1位になりました。また、数日前ですが、石川県内の自治体ランキング、これでも2年連続1位となっています。ランキングが全てではありませんが、野々市市の住環境、あるいは市の政策というものが正しい方向にあるという一つの指標だと思っています。このランキングを一過的なものにならないようにするためにも、今後の市の未来に向け、中長期的な視点で市の取組全体を俯瞰して、多角的に総合計画の内容を検討する必要があると思っています。

委員の皆様におかれましては、率直なご意見を頂くことをお願いいたします。

4 諮問

司会（木戸口課長）

それでは、次第4の諮問に移ります。市長から野々市市第二次総合計画策定について諮問文書をお渡しさせていただきます。鹿田会長はその場でご起立ください。

栗市長

野々市市第二次総合計画の策定について。

野々市市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、野々市市第二次総合計画の策定について下記のとおり諮問します。

諮問内容は、野々市市第二次総合計画の策定に関する審議についてでございます。諮問の理由を読み上げさせていただきます。

本市は、平成24年に野々市市第一次総合計画を策定し、将来都市像である「人の和で 椿十徳 生きるまち」の実現に向け、「市民協働のまちづくり」「野々市ブランドの確立」「公共の経営」といった3つの考え方を基に、基本計画に掲げる各施策を推進してまいりました。

この間、市民や団体、大学、企業等の皆様と協働でまちづくりに取り組み、土地区画整理事業や市民協働事業の推進等により、市民の皆様が活躍できる舞台を整えてまいりました。

一方、私たちを取り巻く社会情勢は様変わりをしており、全国的な少子高齢化や人口減少に加え、甚大な被害をもたらす自然災害が各地で発生している状況です。

また、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大においては、健康被害だけでなく、経済活動にも深刻な影響を受けているところです。厳しい状況ではありますが、今が変革の時です。私たちは、新しい生活、新しい働き方、人と人との新しいつながり方について考え、そして、変えていかなければいけません。

このような状況を踏まえ、希望ある未来を切り拓くために、本市の新たなまちづくりの方向性を見出し、次なる10箇年に向けた総合計画を策定する必要があることから、野々市市第二次総合計画の策定に関し貴審議会のご意見を賜りたく、ここに諮問いたします。

令和2年9月1日、野々市市総合計画審議会会長、鹿田正昭様。

どうぞよろしくお願いいたします。

<p>司会（木戸口課長）</p>	<p>市長は、次の公務のため、ここで退席をさせていただきます。</p> <p>（市長 退席）</p> <p>それでは、野々市市総合計画審議会規則第3条第1項で、会長が会議の議長となることと定めておりますので、この後の議事進行については鹿田会長にお願いいたします。</p>
<p>鹿田会長（進行）</p>	<p>5 議事</p> <p>それでは、早速議事に入ります。</p> <p>議事の1番から4番については関連していますので、事務局から一括して説明をお願いします。なお、質問は1番から4番の説明が終わってからまとめてお受けします。</p>
<p>事務局 （資料の説明）</p>	<p>〔説明資料〕資料1 令和元年度の取り組みについて</p> <p>議事の1点目「令和元年度の取り組みについて」説明させていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。資料1は、令和元年度の取組などをまとめたものでございます。</p> <p>まず、（1）策定方針、でございます。策定方針につきましては、昨年9月に開催しました総合計画審議会でお示しさせていただきました内容と変更はなく、令和3年度までを計画期間としております第一次総合計画の成果と課題を踏まえた上で「市民協働のまちづくりを加速化させるとともに、関係人口やSDGsといった新たな視点を交え」「市民協働のまちづくりの理念を反映し、市民と職員との協働で策定すること」といたしており、また、今般のコロナ禍による感染症予防や新しい生活様式などの要素も踏まえてまいりたいと考えております。</p> <p>（2）計画の名称及び計画期間につきましては、計画の名称は「野々市市第二次総合計画」、計画期間は令和4年度から10年間とするものでございます。</p> <p>（3）3カ年の策定スケジュールは、令和元年度からの3か年における大まかな取組内容を記載させていただいております。「令和元年度」では、策定体制の構築など策定のための準備を進め、「令和2年度（今年度）」につきましては、市民参加の作業部会等の会議を開催し、将来都市像を定める基本構想を検討しまして、「令和3年度」には、将来都市像を実現するための施策を定める基本計画を検討し、総合計画（案）としてまとめまして、基本構想を議会へ上程し、議決を得るスケジュールとしております。</p> <p>この表に記載しております令和元年度の主な内容のうち、「意識調査及び基礎調査」につきましては、後ほど、資料5・資料6でご説明させていただきます。そして、令和元年度の「職員を対象としたワーキンググループの発足及び勉強会の開催」につきましては、右側（4）をご覧ください。職員対象「まちづくり勉強会」の実施状況でございます。総合計画の策定を通して政策等の立案・遂行ができる職員の育成を図ることを目的として、市の若手職員（主事）12名、中堅職員（主査～係長）10名によりワーキンググループを組織いたしました。昨年度は、表のとおり合計4回の勉強会を開催しまして、第1回、第2回では、現行の総合計画の概要や策定方</p>

針、次期計画策定のキーワードとなる「関係人口」や「SDGs」について知る機会を設け、第3回、第4回では、総合計画策定に関する疑問点や不安を共有し、行政評価との関係や基本方針の読み解き方について学びました。なお、5回目では、作業部会など市民との対話を想定した「ファシリテーション研修」を予定しておりましたが、講師来訪が困難となり、昨年度に開催ができなかったのですが、現在のところ、秋頃に開催できるよう調整している状況でございます。

〔説明資料〕資料2 総合計画策定スケジュールについて

続きまして、議事の2点目「総合計画策定スケジュール」について説明させていただきます。

資料2をご覧ください。さきほど資料1で、大まかなスケジュールをお示しさせていただきましたが、こちらでは、取組ごとで区分したスケジュールをお示ししております。資料の中の着色ですが、ピンク色が「市民参画」の取り組み、水色が「職員参画」の取り組み、緑色が市民と職員との「市民協働」での取り組みとなっております。

表の一番上の「総合計画審議会」でございますが、令和元年度は2回会議を開催いたしまして、今年度は3回開催する予定でございます。1回目は本日の開催でございます、2回目は11月ごろ、④番と表示しておりますが、この表の左から2列目の取組内容の欄の④番で表記しております「野々市市第一次総合計画の第九次実施計画等について」ご審議いただく予定をしております。3回目の翌年2月ごろには、⑤番で表記いたしておりますが、第二次総合計画の「基本構想」についてご審議いただく予定をしているところでございます。また、令和3年度には、3回会議を開催する予定といたしております。

次の「野々市市統計データハンドブックの作成（統計データ等をグラフ化し、本市の特徴等を整理したもの）」につきまして、昨年12月にまとめまして、今後実施予定の作業部会等で活用したいと考えております。

次の「職員対象「まちづくり勉強会」の開催」につきましては、先ほどの資料1でご説明させていただきました。

次の「市民意識調査の実施」と「職員意識調査の実施」につきましては、本年2月から3月に実施・回収を行い、現在、集計分析の最終段階となっているところでございます。後ほど、資料5で市民意識調査の結果の中で特徴的なものをご報告させていただきます。

次の「市民ワークショップ<ののいちまちづくりトーク>の開催」と、その下の「市民ワークショップ<若者みらい会議>の開催」につきましては、後ほど、資料3でご説明させていただきますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を見合わせている状況でございます。

その次の「作業部会の開催」につきましても、後ほど別の資料でご説明させていただきますが、本年8月から公募により委員を募集し、10月下旬あたりから、本年度は4回、令和3年度には3回のワークショップをWeb会議を中心として開催を予定いたしております。

最後の「事務局」につきましては、会議の運営、基本構想案や基本計画案の取りまとめ、計画書の編集・印刷を行うスケジュールをお示しするものでございます。今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今後予定しております取組につきましては、感染の状況を注視しながら、会議の開催、開催時期を慎重に調整するとともに、Web 会議による手法なども検討しながら、進めてまいりたいと考えております。

資料2の説明は以上でございます。

〔説明資料〕資料3 市民参画での取り組みについて

続きまして、議事の3点目「市民参画での取り組みについて」でございます。

資料3をご覧ください。この資料は、市民参画により取り組む予定のものをまとめたものでございます。

まず、「1番 野々市市第二次総合計画の策定に向けた市民ワークショップ<のいち まちづくりトーク> (状況報告)」でございます。この市民ワークショップは、2回の開催で、「参加者」は各回市民20名程度、庁内のワーキンググループの職員10名程度とします。「目的」は、「未来の野々市市を見据え、野々市市の魅力や課題を整理した上で、参加者一人ひとりがまちづくりの担い手としてできることや取り組みたいことについて考えいただく機会として開催し、市民が行政に求める役割や課題解決のための実現の手段などを整理し、総合計画の策定に反映するため」に実施するものでございます。「内容」は、「できる、やりたい、やってほしい」をテーマとして、少人数のグループに分かれてのワークショップを行うものとし、当初は7月ごろまでの開催としておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況を踏まえ、開催時期を再検討し、9月に実施する予定としておりましたが、直近の感染状況を考慮しまして、現在は、実施を見合わせている状況でございます。

今後の開催につきましては、検討中ではございますが、Web会議・オンラインでの実施なども視野に入れまして、市民参画による総合計画の策定に向けて検討したいと考えております。

続きまして、右側のページ「2番 野々市市第二次総合計画の策定に向けた市民ワークショップ<若者みらい会議> (状況報告)」でございます。若者みらい会議は、将来を担う学生、そして、市政運営を担う市の若手職員（ワーキンググループの若手職員）を対象としまして、野々市市の現状や課題を踏まえ、まちのあるべき姿や自身の未来について考える機会として開催するもので、今年度の夏休み期間中に開催を計画しておりましたが、今般の情勢を踏まえ、実施を見送っている状況でございます。

今後の開催につきましては、先ほどの市民ワークショップと同様に、検討中ではございますが、大学生は、すでにオンラインによる環境に慣れている状況もあることから、オンラインでの実施なども視野に入れまして、検討したいと考えているところでございます。

続きまして、「3. 野々市明倫高等学校での講演 (実施報告)」でございます。こちらは、市内にあります野々市明倫高校による取組でございますが、明倫高校の1年

生が、初めての取組として、本市の魅力や特徴について調べて動画にまとめることを計画されており、高校からの依頼により、本年7月に、本市をテーマとした講演を市の職員が行ってまいりました。

今後は、「高校生からみた野々市の魅力」として報告を受ける予定ですが、先ほどの若者みらい会議の取組と同様に、学生たちからの報告を何らかの形で総合計画に反映できればと考えているところでございます。

資料3の説明は、以上でございます。

〔説明資料〕資料4 総合計画策定作業部会の実施について

続きまして、議事の4点目「総合計画策定作業部会の実施について」でございます。

資料4をご覧ください。まず、1番「概要」についてですが、作業部会は「市民協働のまちづくりの理念の基、市民と職員との協働で計画を策定するため、市に設置する野々市市総合計画策定委員会の下部組織として、市民と職員から構成する」ものでございます。「部会員」の構成といたしましては、関係団体から8名程度。そして、昨年9月の審議会で「広く市民に呼び掛ける」ことについてご意見をいただきましたが、公募によりご参加いただく方6名以内。市のワーキンググループの中堅職員10名の合計24名程度を予定いたしております。

具体的な「活動内容」といたしましては、今年度は、計画の策定方針、まちの魅力や課題、各種調査結果に踏まえ、「将来都市像」について検討し、令和3年度は、「将来都市像」を実現するための施策について検討することといたしております。「日程」につきましては、今年度は、本年10月から翌年3月までの間に4回程度。令和3年度は、4月から7月までの間に3回程度。「会場」は、野々市市役所の会議室や、こちらの野々市市情報交流館カメラア ホール椿などを考えておりますが、状況に応じてWeb会議での開催も想定しているところでございます。「部会員の決定」につきましては、まず、「関係団体」からの部会員は、保健・医療、子育て、スポーツ、文化・芸術、農業、産業創出などの分野から選出に取り組んでいるところでございます。

「公募」の部会員は、応募申込書と作文の書類審査により、総合計画策定委員会にて選考することといたしており、8月から広報・ホームページ等により周知に取り組んでいるところでございます。関係団体からの部会員・公募の部会員につきましては、9月中をめどに決定し、10月以降に作業部会を開催したいと考えております。

なお、作業部会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策の欄でお示しさせていただいております対策を講じる必要があると考えておりますが、現時点におきましては、特に、今年度中の会議につきましては、Web会議方式による開催とすることで調整したいと考えております。

「作業部会の内容」につきましては、右側のページをご覧ください。今年度は、4回の開催とし、第1回目は、「まちづくりの課題～入門編～」として、参加者同士の理解を深めながら、今後、ディスカッションを行うための土台作り、第4回の将来都市像検討までのロードマップを共有するものとし、第2回目は、「まちづくりの課題～本格編～」として、まちづくりの課題ごとにグループに分かれ、参加者の具体的な

課題意識を共有するとともに、考え方の違いに対する理解を深めるものとしてと考えております。第3回目は、「基本目標／基本姿勢」の回として、第2回で出た課題を踏まえながら、基本目標に掲げる分野ごとに、野々市市が何を目標とすべきか、どのような取組をするべきかを検討していただき、第4回目は、「将来都市像」の回として、これまでの議論（課題、基本目標、基本姿勢）を踏まえ、10年後の野々市市がどのようなまちをめざすかを議論し、集約してキャッチフレーズを検討することとしてと考えております。

資料4の説明は、以上でございます。

鹿田会長（進行）

それでは、資料1から4の説明について、委員の皆様からご意見、コメント等がありましたら、よろしくお願ひします。挙手いただければ、マイクをお持ちしますので、マイクでご発言をお願いします。

吉川委員

1点目の質問ですが、「関係人口」と「SDGs」ということがキーワードとして挙げられていますので、この考えに至った経緯を知りたいと思います。

それから、困難な時期であるがために Web 会議をするという説明が何度か出てきていましたが、ためらわずにぜひ Web 会議をやっていただきたい。新型コロナウイルス感染症の状況はあと1年このままの状況が続くようなので、これを放置しておいて終息するまで待っていると、多分何もできなくなってしまいますので、試行錯誤になると思いますが、Web 会議をぜひ実施していただきたい。

私は今、放送大学に行っていますが、大学の情報を見ると、4月から5月の間に97%ぐらいの大学でオンラインを取り入れて、Zoom で会議をやっています。私も今修士論文を書いています、Dropbox というボックスがあり、その中に資料を入れ、全員が共有で閲覧できるオンライン上のシステムがありますので、ぜひそのようなものを作って、躊躇せずに行っていただきたいと思います。これは要望です。

それから、「サステナビリティ」と「関係人口」、このキーワードは今の時代に合っていて、すごく良いと思います。多分10年ぐらい使えるキーワードだと思いますので、このキーワードを中心に若い人を集めて議論することになると思います。今、人口減少が言われている中で、とても良いキーワードですので、そこから外れないようにファシリテーターの方はコントロールしていただきたいし、また、それについてご意見があればお聞きしたいと思います。

これぐらいの小さい街ですので、そのように Web で会議をすればよいと思います。1か月ぐらい前だったか、市議会を傍聴したときに、GIGA スクールということで議論されていました。GIGA スクールについてまだためらいがあるようで、端末をどのように配布するかという議論がありましたが、多分 Zoom になると思われます。そういうものはそれほど難しいものではないので、ぜひこれをきっかけにそのようなところまで切り込んで、野々市市が Web に強いまちになるようにしていただきたい。これも要望です。ためらわずにどんどん進んでいただきたいと思います。

鹿田会長（進行）	<p>幾つかのご質問がありましたので、回答をお願いします。</p>
木戸口課長	<p>まず1点目、「関係人口」や「SDGs」といった考え方を取り入れるに至った経緯についてですが、昨年度、「ののいち創生総合戦略」を策定しました。その中で、国のほうから「関係人口」や「SDGs」という考え方を取り入れるという方針が示され、昨年度に策定した「ののいち創生総合戦略」にもそのような要素も取り入れています。総合計画についても、やはりそういったところは取り入れるべきだということで、「SDGs」、「関係人口」を取り入れる形で今考えています。</p> <p>さらに、今、コロナ禍の状況であるので、感染症対策やウィズコロナといった観点からも、様々な施策を取り入れていきたいと考えています。</p> <p>それから、Web 会議については、現在、市役所の中でも打合せや講演への参加など様々な形で進めており、機器も購入し、順次進めているところです。これから進めていく作業部会についても、Web 会議ということで考えています。</p>
鹿田会長（進行）	<p>2年前の議事録を見ていただくと、私の挨拶で、「SDGs」にぜひ取り組んでいただきたい、審議会会長の立場で、進めた方が良くとコメントとして申し上げています。それと、私も実は Web 会議をぜひ積極的に活用してほしいと思っておりました。吉川委員が仰った通り、コロナが終息するまで待ってられないので、どんどん Web 会議を採用して進めていかれたら良いと私も感じています。</p>
吉川委員	<p>「関係人口」というのは非常に良いアイデアです。野々市市の人口は今5万3,000人ぐらいで、市になったのは9年前です。今はどうか分かりませんが、市になるには5万人ぐらいの人口が必要で、これを切ってしまうと市から町に戻ってしまう可能性があります。これは気合を入れて5万人を維持しないとイケません。「関係人口」を膨らますのは良いが、定住される方を5万人確保するような政策をぜひやっていただきたい。そうしないとまた元に戻ってしまいます。全国的に人口ピラミッドを見れば分かるように、今、国を挙げて人口増に取り組んでいて、野々市市にとっても関係のない話ではありません。</p> <p>人口が増えると何がいかというと、人口と経済活動には相関があり、簡単に言うと人口が増えると GDP が増える。野々市市も人口を増やせば経済活動が活性化すると言えらると思いますが、それは解析ツールを使って分析してみると分かります。そういう企画をされている方もいると思いますので、ぜひやっていただきたいと思いますが、その瀬戸際にいるということを市民の皆さんも市の職員の方も自覚しておいたほうが良いと思います。</p> <p>そのために一生懸命行うこととして、今言ったように Web を中心にした、電子システムの活用しか今のところないということをし少し付け加えておきます。</p>
鹿田会長（進行）	<p>資料1から4までで、ほかにありませんか。</p> <p>私から、細かいことで恐縮ですが、資料3の「市民参画での取り組みについて」で、「【市民】各回20名程度（事前申込制）」とあります。これは、年齢とかいろいろ</p>

	偏りが出ないような工夫が必要ではないかと思われませんが、参加者はどのようにして集めるのでしょうか。
木戸口課長	広報やホームページ等で周知して集める形を考えています。偏らないような調整というか、20名になるような形で、コロナの状況もあるので、そのような形で少し人数を調整したいと考えております。
鹿田会長（進行）	なぜ気になったかという、市民ワークショップというのは策定していくのに非常に重要だと思うからです。市民の方々、いろいろな人が何を考えているかを吸い上げる良い機会なので、年齢の分布や職業の分布、いろいろあると思いますが、そこら辺をうまく偏らない形で広く意見を集められるように工夫をされたほうがよいと思われま。もちろん公募ですので、希望した人たちが集まってくれるかどうか分かりませんが、例えば公募の際に年齢層でこれぐらいの方が何名ぐらいとか、応募するときに申し込み者側がある程度ジャンルを読み取れるような公募の仕方があると思いますので、そういうことを考えられるといいのかなと思いました。
山下委員	資料3の2番について質問します。「カードゲームやワークショップを通じて考える機会」を設けるとありますが、カードゲームやワークショップの内容を具体的に知りたいです。理由は、コロナウイルス感染拡大防止というので、資料4ではペンなどの使い回しを避けると書いてありますが、カードゲームも使い回しになる可能性がありますので、コロナ対策も含めてこちらの内容を知りたいです。
鹿田会長（進行）	市側で回答があればお願いします。
窪企画課長補佐	カードゲームについては、コロナ禍前に構想として考えていたものです。カードゲームとは何かということですが、一つ例として考えていたのが、「メイキット」という、地域課題に対して解決に向けてアイデアを出し合うカードゲームがあり、それが各地で行われているまちづくりのワークショップでも活用されていると聞いております。それを想定していたところですが、今般の事情ということで、カードゲームは非常に難しいと考えています。 ワークショップについても、やはり若い方、これから将来を担う方ということで、10年後の自分はどうか、10年後の市はどうあってほしいか、丁寧に一人一人にその思いを聞いていく、そのようなワークショップを今のところ開催したいと考えていますが、日程を調整、検討している段階でございます。
山下委員	ありがとうございます。カードゲームは、コロナが拡大する前に考えたのだろうなと思っていました。一つの案ですが、パワーポイントでその題材を班ごとに作って、それをスライドで回していくような内容にすれば、似たような取組もできると思いますので、そういった方法で実施するのもいいかなと思いました。

シー委員	<p>先ほど、野々市市の人口を増やしたらいいというお話がありましたが、やはり小さな市なので、どうしても人口が増えることによって、防災のことや待機児童のこと、小さなお子さんがどんどん増えてくれば、野々市市には小学校が5校ありますが、そのうち2校が県内1位、2位というマンモス校なので、その辺のことも考えていただきたいです。</p> <p>あと、小さな市なので、病院もお隣の白山市と連携を取ってもらおうとか、その辺も考えていただければいいと思います。</p>
中村委員	<p>今、学校のことで質問が出たので、それについて発言します。現在、郷地区では区画整理が進んでいて、これから人口が結構増える見込みです。今言われたように御園小学校など、かなりマンモス校が多いので、郷地区に小中一貫校を木造で造るのはどうだろうかというのが、私の提案になります。</p> <p>木造で造ると、後で壊す時もそれほどお金がかかりません。建物を学校として活用するのはそれほど長くなくてもいいかなという考えで、将来壊して、他のものに使えろというようなことを考えて造っていただけたらいいのではないのでしょうか。通学区域としては、郷地区と富奥地区の一部がいいのではないかと考えています。</p>
鹿田会長（進行）	<p>市側からの回答はなかなか難しいコメントだと思いますが、どなたかコメントできますか。</p>
山口副市長	<p>人口増というか、児童の増加に伴う学校の建設についてご提案を頂きました。現在、お話しいただいた地区のほかに、もう1か所、中林地区でも土地区画整理事業を進めています。そのようなところには住宅が増えて、若い世帯の方が入ってこられて、お子さまが増えることも想定していますし、教育委員会のほうでは、今後の人口の増減についてもシミュレーションをしています。</p> <p>その受皿としては、言われるとおり新たに学校を造る方法もありますが、各地区の人口の増減をシミュレーションして、校区を考え直すこともできます。いろいろな方法があつて、市の財源も限られていますので、最も効率良く、そしてサービスを提供できるような形で、学校についても柔軟な頭で考えていきたいと思えます。ご意見として承っておきます。</p>
鹿田会長（進行）	<p>10年間というのは非常に長いスパンで、再来年からの10年でいろいろとまた人口形態が変わってくると思えますし、計画が進めば地域に住む人も大分変わってくるかもしれません。中間年で、その辺りもまた議論していくということでよろしいかなと思われまます。</p> <p>それでは1番から4番についてはこれぐらいにして、続いて議事の5と6について、まとめてご説明をお願いします。</p>
事務局 (資料の説明)	<p>[説明資料]資料5 市民意識調査の結果報告について</p> <p>議事の5点目「市民意識調査の結果報告について」でございます。</p>

資料5をご覧ください。令和2年2月から3月にかけて、市民、市出身者、市職員を対象として市民意識調査を実施いたしました。それぞれ、現時点におきまして集計・分析途中であります。今回、「市民意識調査」の結果を暫定版ではございますが、ご報告させていただきます。「1番 本調査の目的と実施概要」をご覧ください。「(1)の市民意識調査の目的」は、市へのイメージや居留意向、現行の第一次総合計画の施策の評価などを明らかにし、今後のまちづくりの展開に役立てるため、そして、作業部会など総合計画策定の過程において活用することを目的として実施いたしました。「(2)の調査対象及び実施方法」につきましては、無作為に抽出した20歳以上の市民3,500人を対象に、郵送で調査票を配布・回収を行いました。なお、回収率は、表の上段に記載しておりますが、42.7%でありました。表には、過去に行いました同様の調査における回答の状況もお示しさせていただいております。「(3)の調査期間」は、令和2年2月4日(火)から3月11日(水)の1か月ほどで、「(4)の調査項目」は、表の「A 野々市市への印象」など5項目を設定して行いました。「(5)の過去調査との比較」は、同様の調査を行いました平成21年と平成27年の回答の状況と比較した表でございます。今回調査の回収率は、42.7%で、5年前の調査より若干回収率が上昇しておりますが、約10年前の第一次総合計画策定時の調査より今回は4ポイント低い状況でありました。

右側のページ「2. 市民意識調査結果の概要」でございますが、資料5の次のページ以降は、集計結果の一部を抜粋したものでございますが、これらの概要をまとめたものが、この四角枠で囲ったものでございますので、ご報告させていただきます。①番「誇りや愛着を感じている」の回答が77.8%でありました。②番「野々市市の好きなおところ(自慢できるおところ)」として、「生活利便性」に関する内容が最も多く、45.1%でありました。③番「野々市市のイメージ」については、「住みやすいまち」「便利なまち」といった回答が多く、「住みやすいまち」について「そう思う」「やや思う」と回答した人は、92.1%、そのうち「そう思う」と回答した人は57.6%で、過去の調査より増加しております。また、「便利なまち」について「そう思う」「やや思う」と回答した人は、89.7%で、2009年調査より増加しており、「住みやすいまち」を除く全ての項目で、「そう思う」「やや思う」の合計の割合が過去の調査より増えており、全体的に市へのイメージは向上していることが、調査結果からうかがえました。④番「野々市市での暮らしについて」は、「交通の利便性が高い」「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」「子育てしやすい」という回答が多く、その一方で、「地域の資源を生かした産業が根付いている」という回答が最も少ない結果でした。全体を通して過去の調査より「そう思う」の割合が高まったのですが、「そう思う」「ややそう思う」というポジティブな回答の割合を比較した場合は、過去の調査より低下しており、上記③番のとおり市へのイメージは向上している一方で、具体的な暮らしについての印象はやや悪化している状況がうかがえました。⑤⑥番「地域の活動(町内会など)に参加している」のは52.6%、まちづくりに対し主体的に関わりたいと思っている人は44.7%でありまして、⑦番「10年後の野々市市がどのようなまちであってほしいか、そのために、どのような取組を重点的に進めるべきか」という問いに対しては、福祉分野及び生活環境に関する取組の回答割合が高くなって

おりました。⑨「住み続けたい」と回答した人の割合は84.6%で、2009年調査より3.1ポイント下がったものの、割合としては、高い割合でした。居住年数が長い人だけではなく、短い人についても「当分の間今の場所に住み続けたい」という回答割合が高く、居住年数に関わらず全体的に居住意向が高いことがうかがえました。その一方で、「今の場所から移りたい」と思う理由として、「交通が不便だから」の割合が最も高く24.2%でございました。⑫番「現状の満足度」と「今後の重要性」についての回答から見た施策の総合評価として、7ページをお開きください。これは、現状の満足度と今後の重要性についての回答の平均得点を使用して、評価・分析するための表でございます。A B C Dの色付きの丸がある表をご覧いただきたいのですが、「満足度が低い/高い」を横軸とし、「重要性が低い/高い」を縦軸として、アンケートの回答で得られた平均得点を使用し、「満足度は高く、重要性が高い施策をAとして『今後重点的に実施』が必要なもの」「満足度も重要性も高い施策をBとして『今後も継続して実施』が必要なもの」「満足度も重要性も低い施策をCとして、『事業手法や事業規模の見直しが必要』」「満足度は高く、重要性が低い施策をDとして、『当初の目的はほぼ達成され、事業展開のあり方等の検討が必要』なもの」と分類して、回答結果を落とし込んだものが、下の表であり、A～Dに分類したものが、右側の表となっております。満足度が低く、重要性が高いと回答が得られたもの、「今後重点的に実施すべき」と考えられるものとして、「防災・防犯・交通安全などの安全なまちづくりに関する分野」や、「高齢者・障害者福祉の分野」がみられました。これらの分析結果を踏まえ、今後の作業部会等で議論してまいりたいと考えております。

資料5の説明は、以上となります。

【説明資料】資料6 基礎調査の結果報告について

議事の6点目「基礎調査の結果報告について」でございます。

資料6をご覧ください。「野々市市第二次総合計画策定に係る「基礎調査」結果報告」でございます。こちらの基礎調査につきましても、先ほどの意識調査と同様に、令和2年3月までに行ったものでございますが、まず、「1番 基礎調査の目的」につきましても、各種統計データの整理、類似・近隣団体との比較、国や県の動向、関連計画等を整理いたしまして、本市の現状及び特性を明らかにし、課題を抽出するために行ったものでございます。「2番 基礎調査結果の概要」でございますが、調査内容を踏まえまして、本市の特徴と懸念事項、そして、今後の主要な取組課題を整理したものが、下の表でございます。

まず、本市の大きな特徴の1つとして「金沢市等との近接性、良好な住宅環境等を背景として人口が増加していること」があげられます。その人口に関連する今後の懸念材料といたしましては、「今後の転入超過の頭打ち」「今後の少子高齢化の進行」「将来的な人口減少」のほか「整備が進んだ社会基盤の将来的な老朽化」などがあり、また、もう1つの特徴としては、「コンパクトな市域に2つの大学が立地し、若者が集積していること」があげられます。これに対する今後の懸念材料としては、「若年層（大学卒業後）の流出（就職による転出）」そして「大学生らの卒業後の受け皿の不足（学んだ内容に合う企業や創業・起業機会等）」があげられ、共通の懸念

材料としては、個人市民税が厚く、法人市民税が薄い歳入構造があると考えております。

今後の取組課題としては、「(1)番 人口減少及び高齢化社会への対応」ということで、「計画的な社会基盤の整備・更新」「転入者を含めた地域のつながりの確保」ということで、将来の人口減少を少しでも抑制するために、ハード・ソフト両面から選ばれるまちづくりをさらに進める必要があるとともに、本市は、人口が増加している地域がある一方で、旧市街地を中心に人口が減少している地域があり、将来に向けて新旧住民を巻き込んだ地域づくりを進めること、そして、地域づくりの担い手を確保・育成することが課題と考えております。また、「(2)番 企業誘致・市内産業の育成」ということで、「マザー工場・研究所等を備えた企業の誘致」「起業・創業機会の創出」ということで、今後、高齢化が進行し、現役世代が少なくなった場合は、持続的なまちの発展に影響が出ることが見込まれることから、市内の産業を振興し、持続可能な地域経済を構築するために、「企業誘致の推進」、「起業・創業機会の創出」の必要があると考え、これらを課題ととらえております。

今後開催予定の作業部会等におきましては、これらの特徴・課題を踏まえて、議論し、基本構想、基本計画を検討していきたいと考えております。

3番以降のグラフにつきましては、参考としてお示しさせていただいたものでございます。1つ目のグラフは、「自然増減」「転入転出による社会増減」を合わせた「人口動態の推移」のグラフで、2つ目のグラフは「自然動態（出生数と死亡数）の推移」のグラフ、3つ目のグラフは「社会動態（転入者数、転出者数）の推移」のグラフでございます。

資料6の説明は以上になります。

鹿田会長（進行）

ありがとうございました。それでは、今の資料5と6に関してご意見、コメント等あればお願いします。

田多野委員

資料5の「市民意識調査結果の概要」を見て、とても興味深く、うれしく思いました。「野々市市に住み続けたい」という回答が84.6%あったためです。テレビでも野々市市の市民にインタビューをしていたが、「今の野々市市はどうですか」と聞くと、「ずっと住み続けていたい」と回答する方がおられました。このまちに一生住んでいたいという答えが頂けるのはとてもうれしく思います。

結果を詳しく読んでいきましたが、野々市市の好きなおところとして、生活の利便性が一番に挙げられていました。しかし、それだけに満足して、便利にするということだけを進めていては、別に野々市市でなくても便利なおところは全国を探せば幾らでもありますので、人は簡単にそういうところへ行ってしまう。「野々市市でなくてはならない」というところをアピールしていかなくてはならないと思います。

例えば、野々市市全体を考えてみると、市役所を中心としたこの辺りは非常に利便性がよい。それに対して、大学が2つ野々市市の両端にあり、学究的な研究都市ゾーンとして非常に野々市市の価値を高めています。加えて、野々市市の本町通りの北国街道ゾーンは、文化・歴史的に価値があります。こういうところが相まって進ん

でいく。そして末松の大学の辺りには農業を研究するゾーンもあります。そういう様々な分野が並行して研究してやっていければ、利便性だけではなく学術的にもとても優れています。それから、文化的にも非常に価値の高いところがあり、いつでもそういう雰囲気の中に浸ることができます。利便性だけ言うのではなく、そのようなことが野々市市で提供できれば、野々市市に一生住んでいたいという思いになっていくのではないのでしょうか。

そこで1つ、問題提起にもなりますが、私の住んでいる本町の辺りは北国街道が通っていて、歴史文化ゾーンとして力を入れ、喜多家であったり郷土資料館であったりと充実しています。喜多家は市へ移管して市の管理のもとに進めていくことになると先日新聞に出ていました。それはいいと思います。記事を読み進めると、入場料は以前と変わらず400円と出ておりました。

皆さんも印象的にそうだろうと思いますが、通常の神社仏閣に参拝するときの入館料は大体300円となっています。300円と400円の違いは非常に大きく、400円はいかにも高いです。観光客が1回きりならそれで構わないが、まちの人が何回も行ってみたいと思える金額をもう少し研究してほしいと思います。

もう1点は、いろいろなまちを皆さんも旅行されると思います。例えば歴史的に有名な建物、文化的に優れた建物がある。そこを見学して、「なるほど、素敵だな」という感慨に浸って帰ってくる。野々市市の喜多家も郷土資料館も他の街に負けず劣らずの素敵な建造物ですが、野々市市の北国街道の場合、一番良くないのは道だと思います。フォルテから私の勤めているカミーノを歩こうと思っても、ちょっと怖いです。楽しみながら歩けません。

北国街道の全ての建物が歴史的建造物になっていなくても、ぽつんぽつんとあればよいと思います。どの街でもそうです。しかし、決定的に違って、とても印象に残るのは、道だと思います。ゆったりと歩いて、その建物なりを見学して、旅情に浸りながらという感じです。それができる街はとても好ましく、印象に残ります。

それに対して、何十年來、野々市市の街にある問題は“道”です。これまでもいろいろな工夫をされており、歩道の着色や車のスピードを落とさせるための試みを行っています。しかし、あの道を2人、3人連れ添って、しかも建物を見て、話をしながら歩くわけにはいきません。道が狭いから仕方がないと何回も言われてきました。歩道を広げて、ここは人の歩くところだとアピールしましたが、何せ平らなところだから車がずっと入ってきます。これが、私の街で自慢できる文化歴史ゾーンの現状です。

観光客は1回だけですから、バスから降りて400円を払って見学して行ってしまえばそれでいいのですが、住んでいる我々が何回でもそこへ行って見学したいというときには、ぜひともそういうことを考えていただきたいです。今、喜多家も充実していると思いますが、なおさらそういう施設の改良は街の人向けに必要です。そのためには何としてでも道の改善を行っていただきたい。そういうことをこの意識調査の中で感じたので、よろしく願いいたします。

鹿田会長（進行）

料金の問題と都市計画の問題、大きく分けるとその2つだと思いますが、市側から回答がありますでしょうか。

中田教育文化部長

北国街道の件についてのご要望と思います。喜多家の件は、今週始まる9月議会に条例を上程しています。これまで喜多敬次様の個人所有で、料金は大人1人400円でした。10月1日から公有化になり、市で運営する形を取らせていただきます。料金は400円のまま、田多野館長が今言われたように市民の方に自由にいただくには料金を抑えたほうがよいということですが、金沢市や周辺の文化財施設の料金を見たところ大体400円ぐらいの料金を頂いていますので、上程した条例の中では大人1人400円としました。10名以上の団体割引も考えています。

利点としては、これまで所有者の喜多敬次様が、川崎市と野々市市を行ったり来たりして管理をされ、ご案内等もしていただいていた。1年間の3分の2ぐらいは野々市市におられ、ご都合が悪ければ急遽閉館にしていたのですが、公有化になった段階で、ある程度定期的な休みは頂きますが、担当の職員で案内できますので、安定的にお越しいただけるのではないかと考えています。料金のほうは、大変申し訳ないが、400円で進めさせていただければと思います。

北国街道の道の件については、本町通りは車も頻繁に通りますし、言われるようにゆっくり見て歩けません。格子があって、なかなか風情のある町並みだなと私も思います。実は9月14日に北国街道まちづくり基本計画策定委員会を開催する運びとなり、これから2年間、いろいろと計画を揉んでいただいて、その中で今後、北国街道をどうするか議論いただいた上で進めさせていただく運びとなっています。

確かに車が通って危ないという実感は分かります。案として、例えば将来的にそこは車が通らないようにすることも1つの考えと思います。策定委員会の中でいろいろとお話いただいて、市側としては野々市市が誇れる北国街道にしたいという思いは強く持っていますので、今頂いたご意見も委員の皆さんにお伝えした上で、その中で今後いかに活用していけるか考えていきたいと思っています。よろしく願います。

北川土木部長

今話に出た「歩ける道」につきましては、本町通り、旧大倉外科からいそや菓子舗さんの辺りまでは見てのとおり無電柱化をして広くして、先ほど田多野委員も言われたように、車両のスピードを落とすため、シケインという凸凹したものやイメージランプを整備しました。しかし、結果としては、広くなった分だけ運転する人が慣れてきたらスピードが上がって危ないという声も聞いています。

今後、教育文化部長が説明した北国街道まちづくり基本計画策定委員会が開催され、喜多家だけでなく北国街道の整備をどういう形で進めていくかについても解決案が出てくるかと思っています。その際にはこの本町通りを、まさしく安心して見て回れるような道路にどのようにすればなるかということも、他の先進地的なところも参考にし、大学の先生や警察などと協議しながら進めたいと思っておりますので、今しばらくお待ちいただければと思います。

<p>中塚委員</p>	<p>野々市市は、東洋経済新報社の「住みよさランキング」でナンバーワンになるなど、客観的な評価が高くなっています。私は能登から野々市市に住んで45年経ちます。確かに交通の利便性も高いし、住みよいまちだと思いますが、資料5の④に書いてある「地域の資源を生かした産業が根付いている」の回答が少ないのが、一番野々市市の問題だと思います。これを解消というか払拭していくために何をしなければいけないかという、資料6に書いてある企業誘致ではなくて、企業に付随した研究所みたいなものを誘致してはどうかというのが僕は非常に良いアイデアだと思います。</p> <p>野々市市のような小さい街、コンパクトシティみたいなどころには、企業誘致を進めても、効果はあるでしょうが、野々市市にとっていいのかどうかという問題があると思いますので、むしろ研究所みたいなものを誘致したほうがベターかなと思います。</p> <p>野々市市はとにかくこういう産業の振興が一番大事だと私は思います。環境だとか福祉だとかといっても、やはり経済的な基盤があつての上での話だと思いますので、今後はこれをうまく進めていくことが大切なのではないでしょうか。</p>
<p>坂井委員</p>	<p>4月から主人の会社がコロナ禍でテレワークが始まりました。働き方が変わって、都会から移ってくる人のために、テレワークの個人用のセキュリティがしっかりしたレンタルオフィスがあればいいと思います。1の1にもレンタルオフィスがありますが、あれはセキュリティが充分ではありません。</p> <p>都会から移ってくる人のために、歩いて行ける場所にそういう場所の整備をする方が、大きな会社の研究施設とか大きな会社をつくるとかいう非現実的な感じよりもいいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>鹿田会長（進行）</p>	<p>今の2件のご意見について何か市側でコメントがあればお願いします。今、ちょっと回答も難しい内容かとも思いますが。</p>
<p>山口副市長</p>	<p>私どもも、先ほど中塚委員からご指摘があった地域の資源を生かした産業が根付いていないのが1つ問題だろうと思います。地域の資源もいろんなものがあります。その中でも、本市には大学が2つありますので、大学が大きな地域資源だと思っています。そうしたことから研究施設の誘致というようなところで今少し動いています。</p> <p>今日の新聞と昨日の新聞にも少しご紹介しましたが、中小企業基盤整備機構（i-BIRD）というのが県立大学の前にありますが、ここの施設は立派なラボですので、賃貸料が高いため市で幾つか借り上げて、創業を考えておられる方にお貸しをしようということで、その施設も借り上げて、安価で貸すことを今から始める予定としています。</p> <p>「1の1 NONOICHI」のシェアオフィスでは、今また新たに利用者を募集しています。そちらのほうもご利用いただくことができるかなと思います。強いて言えば起業する人たちを応援する、そういったところを一つ野々市市の売りにできないかな</p>

と思っています。工場の誘致は、確かに幾つかお話を頂いたことがありますが、やはり用地が高いからなかなか難しいのと、周りに住宅地があるため夜間・早朝の操業が難しいこともありますので、できればコンパクトな事業所、研究所とか、コールセンターみたいなものを野々市市に誘致していくとか、創業を支援する、そんなところに本市は力を入れていけばいいのかなと思います。大学とも連携できる、こういったところを売りとしていきたいと考えております。

藤田委員

今回、第一次総合計画の各項目について市民の皆さんにアンケートを取られました。

そこでスケジュールについての質問ですが、次の総合計画審議会は11月の予定となっています。それでは、計画の詳細が各担当課から出てくるのはいつ頃でしょうか。この審議会で方向性について話をするのはいいのですが、計画の本来的・具体的な部分はどのようなスケジュールで策定されていくのか、ということについて教えていただきたいです。要は、どのように1冊の計画にまとめていくのかということです。

計画書には、最終的には数値目標が掲載されます。平成28年度に第一次総合計画の中間見直しをされていますが、データが古くて達成は無理だろうと思われる数値目標であっても修正されませんでした。このことについて僕は何回も意見を言っていますが、適切に修正できないような総合計画や創生計画はどうなのでしょう。

毎年修正するというわけではありませんが、言葉尻だけで計画を立てているわけではないと思いますので、その辺をまず充分に行政側の皆さんに考えていただきたいと思います。

木戸口企画課長

ご意見ありがとうございました。現在の総合計画には具体的施策が97と多くあり、毎年、PDCAサイクルで評価を続けています。

第二次総合計画では、施策の構成を見直し、よりわかりやすくシンプルなものにしたいと考えています。市民とともに策定していく計画でありますので、市民にも分かりやすいことが第一条件かと思っています。そういった方向性で考えておりますので、ご理解のほどお願いします。

鹿田会長（進行）

今の藤田委員の意見は非常に重要なことで、私もこの資料5、6に関して最後に申し上げようと思っていました。市民意識調査の結果が7ページで非常に分かりやすくまとまっていますが、市民から出てきたこういった意見が、次の10年の計画の中にきちんと生かされてこないと意味がありません。継続的にやるということも重要ですが、やはり、現実に市民の方が思っておられることが反映されないと、生きた計画にならないと思います。

継続性はもちろん重要ですが、取り組んできて良くなかったことなどは除き、市民の方が意識を持っておられることはしっかりと計画に反映させる。そして、5年というスパンが良いのか3年というスパンが良いのかは分かりませんが、状況によって変えていくこともあると明示して策定するということだと思います。

この7ページは暫定版と書いてありますので、恐らくこれはもう少しきちんと精査されるのだと思います。もし準備が可能であれば、11月の審議会の時には精査されたものをベースに議論できればより良いのではないかなと思います。

では、予定時間も大分過ぎましたので、本日の議事についてはこれで終了したいと思います。この後については事務局へお返しします。

6 その他

鹿田会長、ありがとうございます。委員の皆様におかれては長時間にわたり誠にありがとうございました。本日頂いたご意見をもとに、野々市市第二次総合計画の策定に取り組んでまいりたいと思います。

今年度の審議会はあと2回、11月頃と2月頃の開催を予定しております。

本日、皆様のお手元に、次回の審議会の日程調整表を置かせていただいています。お忙しいところ恐縮ながら、期日までにご回答いただければと存じます。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視した上での開催とし、状況に応じて書面会議での開催も想定しています。今後、日程調整などのご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後に閉会に当たり、山口副市長よりご挨拶を申し上げます。

7 閉会

皆さん、本日は本当にご多用のところ、加えてこのような遅い時間帯にも関わらず総合計画審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が、お話の通りなかなか収束しない状況ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら、策定の作業については、着実に進めてまいりたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。

また、本日委員の皆様から頂いたご意見についても、しっかりと整理をさせていただいて、今後の計画の策定に反映をさせてまいりたいと思っております。

最後になりますが、今後とも、本市のまちづくりに対して、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げて、閉会の挨拶にかえさせていただきます。

本日は皆さん本当にありがとうございました。

以上をもって、令和2年度第1回野々市市総合計画審議会を終了させていただきます。

皆様、本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

司会（木戸口課長）
（閉会）

山口副市長

司会（木戸口課長）
（閉会）